

令和7年度(2025年度)とうきょう すくわくプログラム活動報告書(八王子市)

施設名	ピノキオ幼児舎西八王子保育園
担当者名	クコヌ カリナ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

天気

<テーマの設定理由>

戸外活動中に「あの雲○○みたい」「おもしろい形みつけた」と雲についてお友だちや保育者と会話が広がる姿が見られ、戸外に出かけると毎回空の観察をするようになった。観察をしているうちに雲の種類や天気予報を気にする姿が見られ、「なんで?」「どうして?」と身の回りの不思議について「知りたい」と調べたり、考える姿から様々な方向に関心が広がる可能性も感じられ、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

4月～5月中旬

- ・雲（空）の観察し写真に撮って記録する。
- ・雲に名前や種類があることを知る。

5月下旬～6月

- ・雨雲から雨が降る仕組みを、実験を通して知る。
- ・雨散歩にでかけ五感を使って雨に触れたり、雨の日と晴れの日身の回りの環境や自然物の違いを楽しむ。

7月～9月

- ・夜空から星や星座について興味をもつ。室内プラネタリウムや制作など楽しむ活動。

10月～1月

- ・宇宙について自由に考え、描いてみる。
- ・宇宙についての図鑑や絵本、宇宙飛行士の宇宙での過ごし方を動画視聴し知る。
- ・学んだことを保護者や保育者に発表する。

2月～3月

- ・風あそび、様々な方法で風の動きを感じる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<準備物>家庭用プラネタリウム/絵本・図鑑/制作・実験物（画用紙/スポンジ/霧吹き/ケース/シェービングクリームなど）/宇宙食/風遊び（凧/風船など）

<環境設定>

- ・観察した雲や空を写真に撮り、保育室に掲示したことで振り替えられるようにした。
- ・興味をもったことを、身近な道具を使って実験を行ったことで、遊びから楽しく学べるようにした。
- ・視覚から学べるようプロジェクターやスクリーンを用意し、大きな画面で動画鑑賞を行った。
- ・プラネタリウム見学 施設の実踏、事前打ち合わせ。
- ・子どもたちの興味関心に合わせた絵本や図鑑の用意。
- ・探求したこと、制作物は保育室に掲示し振り返られるようにした。
- ・探求したことを保護者に伝える場を設けた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

4月 戸外遊びやお散歩の際、雲（空）の観察を行う。また、撮った写真を保育室内に掲示したり、図鑑などで調べたりして、雲に名前や種類があることを知る

5月 「好きな雲を描いてみよう」スポンジを使った制作

これまで観察したり写真に記録してきた雲のなかで好きな雲（空）を描いてみる

5月 「雨の日の空はどうなっている？公園は？」「雨散歩にいてみよう」

雨散歩にでかけ、空の様子を観察したり、公園でいつもと違う所はないか探してみる

6月 「雨が降る仕組みを知ろう」「身近なものを使って実験してみよう」

スポンジや霧吹き、シェービングクリームや絵の具を使って雨雲を作ったり、雨を降らせてみる

7月 「星、星座をみてみよう」「星空観察」

室内プラネタリウムで星、星座観察を楽しむ

8月 「星座クイズに挑戦してみよう」「自分の星座を知ろう」

星座の形クイズに挑戦してみる。自分の十二星座を知る

9月 「自分の好きな星座を作ってみよう」

スパッタリングで星座や星空作りを楽しむ

10月 「プラネタリウム見学」「知っている星座を探そう」

プラネタリウム見学に行き、星や星座の鑑賞を楽しむ。

11月 「宇宙にはどんな星がある？」

スクリーンとプロジェクターを使って宇宙に関する子供向け番組をみる。

1 1月「宇宙船のなかでの過ごし方とは？」

宇宙飛行士が実際に宇宙船で生活している動画をみてる。

1 2月「宇宙食を食べてみよう」

宇宙食(カレーとミネストローネとアイス)を食べてみる。普段食べている物との違いを知る。

1月「宇宙について学んだことを発表しよう」

宇宙で学んだこと、印象に残ったことを保護者や保育者に発表する。

2月～3月

戸外遊びにて、凧や風車、風船、紙飛行機を使った風あそび

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「雲への興味」

お散歩中に雲の写真を撮って、部屋に掲示すると「○○に似ているね」「竜みたい」等、盛り上がっていた。

「好きな雲を描いてみよう」

観察したり記録として写真に撮ってきた空や雲を振り返りながら好きな空(雲)を描いた。画用紙の色も白、黒、灰色、青、水色など幅広く用意していたが、「保育園の帰り道で見た夕日を描きたい」とオレンジやピンクなどの画用紙を使って描く姿も見られた。雲を描きやすいようスポンジを用意したがざらざらしている面と凸凹している面を使い分けながらリアルに描く姿が見られた。「こんな形の雲みたんだよ」「羊雲が好きなんだ」などとお友だちとやり取りをしながら楽しく作業する姿が見られた。晴れている空を描く子が多いのではと予想していたが、雨雲や雨の日などの暗い空を描く子が多く「夜って雲あるのかな?」「夜は星がでるんだよ」「黒い所は宇宙」などと会話する姿が見られた。

「雨の日の空はどうなっている?」

レインコートを着て雨散歩に出かけた。普段行わない活動に「雨なのにお外いくの?」

「楽しみ」と活動に意欲的な姿が見られた。外に出ると「つめたい」「食べちゃおうかな」

「手に集めてみる」「雨の匂い」などと五感を使って自由に雨に触れる姿が見られた。公園では水たまりで思いっきり遊んだり、動植物の観察をし、いつもと違う公園の雰囲気を楽しむ姿が見られた。

「雨が降る仕組みをしよう」

雨を降らせる実験を2つ行った。一つ目はスポンジを雲にみたて、霧吹きスプレーをつかって雨を降らせた。スポンジに水が溜まってくると少しずつスポンジから水が垂れ、「あめだ！」と遊び感覚で楽しむ姿が見られた。

二つ目は溜めた水の上にシェービングクリームをたっぷり乗せ、雨に見立てた青色の水をスポイトで上から垂らし、雨雲を作った。少し内容は難しかったが色の変化や普段使わないクリームに興味を示しながら楽しく取り組む姿が見られた。実験前と後では雨が降る仕組みについてなんとなく理解した発言が見られた。

「星、星座をみてみよう」

室内プラネタリウムを行い星座観察を行った。「あの星座かっこいい」「あの星座みたことある」などと自由に発言しながら、お気に入りの星座を探す姿が見られた。

「星座クイズに挑戦しよう」「自分の星座を知ろう」

星を線でつないだだけのカードと、星座をイラストにしたカードを用意し、形をみてどの星座か当てるゲームをチームごとで行った。「このかたち似てない?」「この部分がしっぽかな?」などとお友だちと協力しながら星座を探す姿が見られた。答え合わせをした後は自分の十二星座を知った。自分の星座が分かると「お母さんはこれだ」と家族の星座に興味を持ち、お迎え時などに保護者に伝える姿が見られた。

「自分の好きな星座を作ろう」

網と絵の具をつかってスパッタリングで星座作りを行った。自分の十二星座を描く子や、プラネタリウムでみたお気に入りの星座を描く子、こんな星座があったらいいなとオリジナルの星座を作る子様々だった。星座だけでなく火星などの知っている惑星も一緒に描く姿が見られた。

「プラネタリウム見学」

サイエンスドームに行き、星、星座の鑑賞を楽しんだ。知っている星座がでてくると「あれ知っている」「○○だ」と興味を示したり、「こんな星座もあるんだ」「これきれいだね」などとお友だちと会話が広がっていた。

「宇宙にはどんな星があるの?」

スクリーンとプロジェクターを使って宇宙に関する子供向けアニメを鑑賞した。アニメになっていたこともあり、興味を示しながら楽しく学ぶ姿が見られた。難しい言葉がでてきたときには保育者に「○○ってなに?」と確認しながら学びを深める姿が見られた。重力に興味を示す姿も見られた。

「宇宙船での過ごし方」

宇宙飛行士が実際に宇宙船で過ごしている映像をみたことで、これまで宇宙に興味を示していなかった子も興味を示す姿が見られた。「〇〇さんしてるよ」「宇宙ではこうなるんだね」「いつてみたいな」などと感じたことを保育者やお友だちに伝えながら鑑賞する姿が見られた。また動画内で食べていた宇宙食に興味を示し「食べてみたい」「おいしいのかな？」と新たな探求がはじまるようなつぶやきが見られた。

「宇宙食を食べてみよう」

画面越しでみていた宇宙食が目の前に用意されると、「動画で食べていたやつだ」「同じもの？」と嬉しそうな姿が見られた。また、給食のカレーと食べ比べができるようにしたことで「宇宙食のカレーは少しからいね」「こっちの方が好きかも」「いつものカレーがいいな」などそれぞれ感じたことを言葉にしながらかしむ姿が見られた。食べ物の好き嫌いを気にせず普段食べることのない宇宙食の探求を楽しんでいた。

「宇宙について学んだことを発表しよう」

これまでの探求で知ったこと、印象に残ったことをそれぞれがセリフにし”宇宙”をテーマにした劇を保護者に発表した。「宇宙船をつくりたい」「宇宙服をきたい」など図鑑や動画でみたものを真似ながら製作時間もかしむ姿が見られた。学んできたことを発表する機会を設けたことで子どもたちも達成感を感じられている様子が見られた。

「風遊び」「自然遊びとは？」

自然ってなに？自然を使った遊びは？の問いに子どもたちが自由に考え自由に発言する姿が見られた。「この遊びは夏じゃないとできないね」「今ならこの遊びできるんじゃない？」などの声が聞こえた。

子どもたちの意見からでた凧あげ、風船上げを行った。「この公園は木があるからできないね」「この公園は広場があるよ」などと凧あげをするにあたり、公園選びも子どもたちが考える姿が見られた。凧あげをしたことがある子を中心に教え合う姿が見られた。「今風があるからチャンスだよ」「今は風がないからあがらない」など風を意識してかしむ姿が見られた。

プラネタリウムへ☆



保育室でもプラネタリウム☆



雨を感じる♪



宇宙食を食べてみる☆

星空をつくる☆



風を感じる♪



雲をつくる♪



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子どもたちの普段の様子や活動時の様子を振り返る時間を設け、つぶやきに注目しながら子どもたちの「やりたい」「知りたい」と興味のあることをテーマに探求を進めていくことで、子どもたちが意欲的に探求する姿が見られた。また保育園だけでなく、家庭でも探求してみたり、活動内容を家族に伝えたりする姿も見られ、関りや会話が広がっていくことを感じた。

子どもたちの興味や意欲をかきたて、子ども主体で進めていくために、保育室の環境設定が大きな役割を果たす意味を改めて感じた。日々変わる子どもたちの興味や好きな遊び、姿に合わせて環境も変えていく必要があると感じた。特別なものを用意しなくても身近なものをつかった実験のような活動も子どもたちにとっては楽しい遊びとなり、「やってみよう」「こうしたらどうなる？」という気持ち、探求心を育めることにも気づきこれからも大切にしたいと感じた。

「すくわく活動をする日」と子どもたちのなかで興味、関心の差があるまま活動を行っていたが、やりたい子や興味のある子が常に探求できる環境を作ることの大切さに気づいた。引き続き日々の保育活動に遊びとして取り入れたり、子どもたち自ら探求できるような環境を見直していきたい。